



発行・お問い合わせ先



国立大学法人

名古屋工業大学 ダイバーシティ推進センター

<https://diversity.web.nitech.ac.jp/>

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL.052-735-5121

Email: diversity-staff@adm.nitech.ac.jp

2020年3月発行



ダイバーシティ 研究環境を目指して

多様な性を理解するためのLGBT+ハンドブック



共に創る未来へ

名古屋工業大学は、個性豊かな人材が互いの違いを認め合い、活かし合いながら、学術研究で新しい技術の価値を創造しグローバルに発信する「工学のイノベーションハブ」を目指します。性別、年齢、母語、文化、宗教など、さまざまな多様性を包括的な視点に収めようとする努力がこれまで払われてきました。しかし、こうした従来からの視点に加え、今、多様な性のあり方にも注目が集まっています。多様な性への理解が社会全体で進む中、すべての学生が安心して学ぶことができ、教職員も含めて誰もが伸び伸びと本来の能力を最大限発揮できる教育研究環境を整えていくことは、名古屋工業大学が目指すダイバーシティに基づく「工学のイノベーションハブ」創出の重要な鍵です。

性の多様性とは…

性に関する要素は大きく4つに分けられます。性自認や性的指向は誰にでもあり、性のあり方は人それぞれです。一部の人に限ったことではありません。

身体の性 身体的性別

生まれながらの生物学的な性別で、性器の違いのほか、精巣や卵巣といった性腺や染色体などの違いで表されます。

心の性 性自認

自分の性別をどう思うかをいいます。「自分は女である」「自分は男である」など、その人自身が認識する性別のことです。

好きになる性 性的指向

どのような性別の人(同性・異性・両性)を好きになるかをいいます。恋愛感情や性的感情を持たない場合もあります。

表現する性 性表現

服装やしぐさ、言葉遣いなど、見た目の性別に加えて、自分の性を外部に対してどう表現するかをいいます。

LGBTとは…

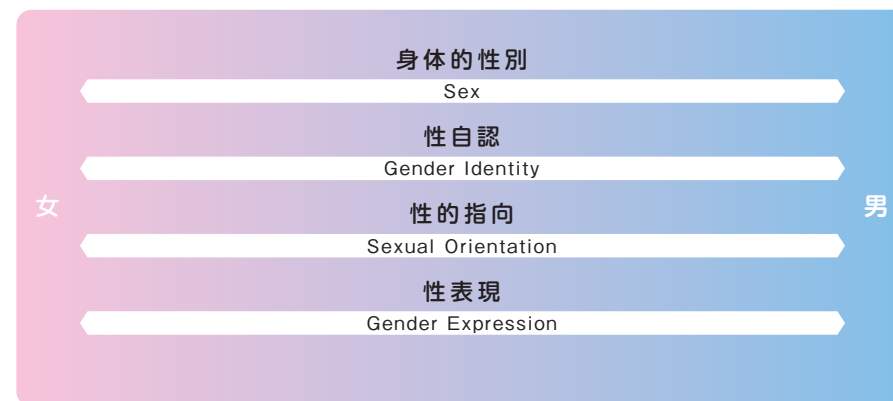
レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとって組み合わせた略語であり、性的少数者を示す代表的な言葉としてよく用いられています。しかし、こうした当事者は性自認や生まれ持った性的指向等の複数の要素によって千差万別であり、単純に4種類に分けられるわけではありません。本ハンドブックでは、下記4つのカテゴリーに当てはまらないその他のセクシュアリティを包摂するLGBT+という言葉を経総として用います。

Lesbian レズビアン …… 性自認が女性で、恋愛・性愛対象も女性

Gay ゲイ …… 性自認に関わらず、同性愛者の人
(狭義には、性自認が男性で、恋愛・性愛対象も男性を意味する)

Bisexual バイセクシュアル …… 恋愛・性愛対象が男性・女性両方に向く人

Transgender トランスジェンダー …… 身体・戸籍の性とは別の性として生きたいと望む人



多様な性を理解する上で重要なことは、性別は「男」と「女」に二極化されないということです。たとえば、好きになる性では、「8割ぐらい男性が好きだけど2割ぐらい女性が好き」という人もいますし、心の性では、「自分のことは男性だと思っているけれども女性としての部分もある」という人もいます。人の性はグラデーションであり、はっきり分けることは難しいのです。

※本書に掲載のLGBT+の方の声は、LBGT法連合会「困難リスト」および(特非)虹色ダイバーシティ「大学教職員向けのLGBT対応に関する資料」より抜粋、または意味を損ねない範囲で手を入れている場合があります。

大学生活、教育の場で起こりうる問題

授業や研究室

教育現場にも意外と多い 世の中の男女の区別。

世の中には、男と女に区別されているものがたくさんあります。その区別は、教育現場においても例外ではありません。たとえば、学生を呼ぶ際の「くん、さん」の呼称もその一つ。配慮として日頃から性別に関わらず、「さん」に統一するといった方法が考えられます。また、アンケートを行う際に、性別欄を設けたり、グループワークで男女のペアを作ったりすることも注意が必要です。さらに、体育実技や課外活動などで専用ウェアへの着替えが必要な場合、あるいは用具が男女別になっている場合には、各科目の専門教員等に確認の上、履修登録前に十分な事前アナウンスを行うことが望ましいでしょう。

LGBT+の学生や 教員が直面した 困難の声

学籍簿の性別や氏名が、戸籍や住民票にもとづいて記載されているため、性自認とは異なる周囲が期待する性別での振る舞いを求められたり、性同一性障害であると噂され、苦痛を感じた。

性的指向や性自認によって困難を抱える学生に対応する必要があったが、当事者対応のガイドライン等がなく、適切な対応ができなかったり、配慮について他の教職員などから十分な理解を得られなかった。

戸籍名や性別記載欄がある学生証、成績証明書などの書類、男女に分かれた更衣室、トレーニングルーム、トイレ、寮、合宿所などはLGBT+の学生にとって苦痛を伴うことがあります。

服 装

せっかくのお祝いの中でも 自己表現ができない辛さ。

スーツや袴での参加者が多い入学式や卒業式。しかし、LGBT+の学生の中には、着たい服を着られずありのままの自分でいられないという人もいます。今後は、式典であることを踏まえた上で、多様なアイデンティティに基づいた服装で参加することができる環境が欠かせません。

健康診断

受診のハードルが高く、 受けたくないという声も。

本学では、日頃の健康状態を把握して、病気や体の異常を発見し、早期治療につなげることを目的として健康診断を行っています。しかし、LGBT+当事者が健康診断を受けようすると、更衣室の問題だけでなく、一つ一つの検査でセクシュアリティの説明が必要になるケースがあります。LGBT+の方にとっては検査を受けること自体が悩みの一つになっていることもあるのです。

LGBT+の学生が 直面した困難の声

宿泊行事、健康診断、身体測定など、身体の露出がある場面において、性的指向や性自認による困難を抱えている子どもの想定・配慮がされておらず、身体を見る・見られることへの不快感など、苦痛を感じた。

トイレ・更衣室

注意されないか、周囲の目が いつも気になるという不安。

トイレ・更衣室等の設備利用をめぐるのは、本人の意思をなるべく尊重した対応や他の利用者との調整をどのように行うかなど、予め考えておく必要があります。性別による区別のないトイレや更衣室を別に設置することも有効ですが、その利用のみを強制し、利用者の性自認に適合した設備の利用を認めないこととするのは、不快感を与える恐れがあるため、本人の意思や他の利用者の状況等により対応する必要があります。

LGBT+の学生が 直面した困難の声

他の人に身体を見られる心配や、他の人の身体が目に入る罪悪感から、学校の更衣室やトイレが使いつらかった。

留 学

留学先で求められる 環境や支援体制は人それぞれ。

LGBT+の学生の中には、「海外へ留学するなら、LGBT+として活動しやすい地域に留学したい」という声もあるようです。しかし、留学プログラムの企画元や協定校によって受け入れ状況が異なるため、事前に参加希望のプログラムや受け入れ先の状況を調べることが重要です。

就職活動・キャリア支援で起こりうる問題

LGBT+であることが 就活を困難にしている事実。

誰もが自分らしく働きたいと願う行方就職活動。それが、LGBT+であることで困難になってしまうことがあってはなりません。しかし、LGBT+の学生は就職活動のスタート時から困難に直面しています。就職活動を始めるとき、まず用意するのが「履歴書」。現在、日本において全国規格化されているJIS履歴書には、氏名や住所、生年月日などのほか、「写真貼り付け欄」と「性別欄」が必ず用意されています。また、就職活動では多くの学生がリクルートスーツを着用します。しかし、一般的なスーツ量販店では、「メンズ」「レディース」のスーツのみを取り扱っていることがほとんどのため、自分にあったスーツを着用することができずに就職活動が難航したというケースもあるようです。

就活中、LGBT+の学生はこんなことに困っています

リクルートスーツが男女に分かれているため、説明会、面接に行きづらい。

履歴書の性別欄に○をつけられない。

キャリアセミナーが異性を前提に行われているため、将来設計がしにくい。

キャリアセンターでセクシュアリティを含めた本質的な相談ができない。

LGBT+当事者が社会に出て直面した困難

職場の相談窓口に必要なプライバシーポリシーがなく、アウティングされたり、不利益な取り扱いを受けたりするかもしれないとの不安から、必要な事実を打ち明けられなかった。

職場でカミングアウトしているが、そのために社内SNSで名指しされて差別的なことが記載された。会社に訴えたが、差別事案ではなく単なる個人間のSNSトラブルという扱いで、相手側の処分等はされなかった。

「LGBTフレンドリー」であることを社外的にアピールしている企業を選んで就職したが、実際の現場は差別的言動が多く、非常に失望し、転職を考えた。

会社の更衣室・制服・社員寮・宿泊研修等での男女分けがあり、戸籍性でしか利用できなかった。



近年はLGBT+等に理解を示し、必要な支援を行う企業等が日本でも増えており、そうした取り組みを評価する指標も登場しています。しかし、実際の現場にどこまでLGBT+への理解やフレンドリー精神が浸透しているかは企業等によるため十分な下調べも必要です。大学としては、LGBT+の就職活動や就労環境に関するこうした事情を理解した上で、情報の提供や窓口の紹介といった必要な支援を行っていく必要があります。

カミングアウトへの対応

カミングアウトをするかしないかは、本人の意思が一番大事。

「カミングアウト」とは、これまで秘密にしていた自分のセクシュアリティを誰かに打ち明けることです。カミングアウトは本人にとって恐怖や不安を伴うことが多く、自発的に相談に訪れた場合でも、かなり大変な思いをしてカミングアウトをしているということを理解しなければなりません。また、カミングアウトは強要されるべきものではなく、その行為を行うか否かは、本人の意思が尊重されるべきものです。カミングアウトが受け入れられれば、その人に恋愛や性別のことを隠さず付き合うことができますが、もしも受け入れてもらえなかった場合、その人との関係性が絶たれてしまうこともあるとても繊細な事柄です。

LGBT+当事者が直面した困難

学校で性的指向や性自認に伴う悩みを相談しようと思っても、相談できる場所がなく、支援が受けられなかった。メンタルヘルスの悪化や自殺未遂に追い込まれた。

性的指向や性自認について正確な知識を持っていない親にカミングアウトしたところ、暴力をふるわれるようになり、家庭が崩壊した。

学校の教員を含めて、身近にカミングアウトしている大人がいなかったため、自分のロールモデル(役割モデル)が見つけれなかった。

就職活動の際、結婚などの話題から性的指向や性自認をカミングアウトしたところ、面接を打ち切られた。

教職員が相談を受けた際にできること(例)

セクシュアリティを決めつけない。

「話してくれてありがとう」や「つらかったね」と気持ちに寄り添う。

何に困っているのか、何を望んでいるのかをしっかりと受け止める。

他の誰かに話しているかを確認し、本人の同意なく第三者に伝えない。

支援、相談機関などにつながる情報を伝える。

最適な対応は一人ひとり違うため、学生との対話の中で対応を考えていく。

アウティングは絶対ダメ!

当事者の意思による「カミングアウト」に対して、当事者の意思によらない性的指向や性自認に関わる情報の暴露を「アウティング」といいます。性的マイノリティにとって、アウティングは、当事者の生命に関わる事態に直結することにもなりかねません。性的指向や性自認に関わる情報は、当事者の意思に沿う形で慎重に扱うよう努めることがアウティング予防のためにも重要であり、悪意・故意によるアウティングに対して、ときに厳正な態度で臨むことも必要です。また、性別情報が記載されている名簿を配布・掲示した結果、偶発的なアウティングが起こった事例もあります。

コラム 一橋大学で起こったアウティングによる悲劇

2015年8月、一橋大学の法科大学院の大学院生が、同性愛者であることをSNS上で同級生にアウティングされたことにより思い悩み、校舎から飛び降り自殺するという事件が起きました。学内の相談窓口も利用しましたが、アウティングの悩みに対して性同一性障害の説明を受けるなど不適切な対応を受け、周囲に理解してもらえないという孤立感の中で、精神状態が悪化したと見られています。事件の翌年に遺族が提訴した裁判を担当した弁護士は、2017年4月、記者会見で「彼が亡くなったのは、彼が同性愛者だからではない。同性愛者を差別し、蔑み、認めない社会があるからだ」と語りました。

当事者インタビュー

非 公 開

非 公 開

非 公 開

非 公 開

非 公 開

日常で可能な配慮

まずは正しい知識を持って、違いを認め合うことが大切です。

世の中には、多様な考え方、多様な家族の形、多様な人生があるように、多様な性もあります。誰もがありのままで生きていける暮らしやすい社会になるよう、まずは一人ひとりがLGBT+についての正確な知識を身につけ、さまざまな違いを認め合うことから始めましょう。

1 想像力をもって行動しよう。

「私の身近にはLGBTの人はいない」。そう思っている、もしかしたら周りに言えていないだけかもしれません。自分の周りにも一定の割合でいる可能性があるという意識を持って行動することが大切です。

2 習慣・常識を見直してみよう。

なんとなく習慣になっている世の中のルールや常識。そうした考え方を今一度点検し、性的指向・性自認に関する差別やハラスメントにつながるものはないか、見直しが必要なものはないかを考えてみましょう。

3 理解者を増やそう。

学内で、LGBT+当事者が、「自分の居場所がある」と実感できる機会を増やしていくことが大切です。たとえ一人でも、きちんと気持ちを受け止めてくれる人、安心感を与えてくれる人がいれば、前向きな気持ちが生まれるものです。